

めぐみイエス・キリスト教会

2024年8月4日(日)第一主日礼拝

午前10時より

週報「通算第718号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌465「いつかは知らねど」 p. 748

【交読文】 No.45 詩篇第146篇 p. 915

【賛美Ⅱ】 新聖歌385「主よ終わりまで」 p. 620

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「父なる神の愛」

【聖書朗読】 ルカの福音書6章20節～23節(新約p. 121)

【礼拝説教】 《主イエスの言われる幸いとは？》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄与」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書6章20節～23節)

6:20 イエスは目を上げて弟子たちを見つめながら話し始められた。「貧しい人たちは幸いです。神の国はあなたがたのものだからです。

6:21 今飢えている人たちは幸いです。あなたがたは満ち足りるようになるからです。今泣いている人たちは幸いです。あなたがたは笑うようになるからです。

6:22 人々があなたがたを憎むとき、人の子のゆえに排除し、ののしり、あなたがたの名を悪しざまにけなすとき、あなたがたは幸いです。

6:23 その日には躍り上がって喜びなさい。見なさい。天においてあなたがたの報いは大きいのですから。彼らの先祖たちも、預言者たちに同じことをしたのです。

●ポイント1.「マタイの福音書における平行記事」から

※マタイの福音書5章3節・6節・11節～12節「山上の垂訓」(新約p.6)

5:3 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。

5:6 義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるからです。

5:11 私のために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。

5:12 喜びなさい。大いに喜びなさい。天においてあなたがたの報いは大きいのですから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々は同じように迫害したのです。」

●ポイント2.「今泣いている人たちは幸いです」とは？

※ヨハネの黙示録21章3章～4節「新しい天と新しい地」(新約p.516)

21:3 私はまた、大きな声が御座から出て、こう言うのを聞いた。「見よ、神の幕屋が人々とともにある。神は人々とともに住み、人々は神の民となる。神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。

21:4 神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しみもない。以前のもものが過ぎ去ったからである。

●ポイント3.「人々があなたがたを憎む時」とは？

※ヨハネの福音書15章18節～19節・23節「主の言葉」(新約p.216)

15:18「世があなたがたを憎むなら、あなたがたよりも先に私を憎んだことを知っておきなさい。

15:19 もしあなたがたがこの世のものであったら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではありません。私が世からあなたがたを選び出したのです。そのため、世はあなたがたを憎むのです。

15:23 私を憎んでいる者は、私の父をも憎んでいます。」

◎先週の礼拝メッセージ【愛と哀れみによるいやし】

《さて、主イエスは十二弟子たちと共に山を下られました。するとそこに、ユダヤ全土、エルサレム、ツロやシドンから来た、おびただしい数の人々がいたのです。その人たちは、主イエスの評判を聞いて、神の国の教えを聞く為、また病気を癒してもらおう為、そして汚れた霊から解放してもらおう為に、集まっていたことが分かります。

群衆はみな何とかして主イエスにさわろうとしました。なぜなら、主に触れた人々は、主から神の力がでてきて、みな癒されたからです。

ここから、病のいやしと悪霊からの解放が、主イエスの最初のミニストリーであったことが分かります。このミニストリーを主イエスは、この時には、まだ、ご自身でなされていたのです。それゆえ、主イエスは十二使徒を任命する必要があり、この後、彼らを二人一組、6チームに分けて、ユダヤの各地方に遣わされることになるのです。

主イエスは病を癒し、悪霊を追い出しましたが、それは救いとは別なものです。癒やされたすべての者が、主の弟子になったのではありませんし、また救われたわけではありません。

しかし、主イエスは愛と哀れみによって、癒やしの御わざを行なわれたのです。それは、心から人々を愛しておられたからであり、また癒やしは神様と主イエスの御心であったからなのです。

さて、現在、癒やしの奇跡はどうなっているのでしょうか。リベラルなプロテスタント教会は、新約聖書が完結した今日では、癒やしや奇跡はすべて終わった、と主張しています。主イエスの兄弟ヤコブは、『あなたがたのうちに病気の人がいれば、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。信仰による祈りは、病んでいる人を救います。主はその人を立ち上がらせて下さいます。』と勧めています。主イエスは、ご自身の働きを弟子たちに託されました。そして、さらに、私たちに委ねられているのです。》

お知らせ

※次回8月11日(日)第二主日礼拝は通常通り10時から行ないます。